

[様式14]

(対象事業：(1)子どもを対象としたミュージアム事業及びその開発にかかる事業)

事業名：「古代のカプリモノで君もスマイル！
ーカプリモノ変心塾」

事業者名：MIHO MUSEUM

連携事業館名：甲賀市教育委員会・信楽公民館

住所：滋賀県甲賀市信楽町桃谷300

TEL：0748-82-3411

FAX：0748-82-2834

HPアドレス：<http://miho.jp>



①施設概要

敷地面積：100万㎡（30万坪） 美術館棟（床面積）：17,400㎡

レセプション棟（床面積）：3,400㎡

美術館棟は、「自然と美術品」「伝統と現代」「東洋と西洋」の融合をテーマに、建築容積の80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。

②事業の意図目的

当館がある信楽町は聖武天皇が造られた紫香楽宮があり、その時代は世界的な文化交流が盛んに行なわれ、遠くはエジプトから日本へ文化が渡ってきた。地域の子供達に対し美術品を通してそのことを理解してもらい、展示作品に関連したワークショップを行なうことでより深く歴史や文化を学ぶことを目的とする。

③事業概要

当館所蔵作品に関連した夏休み子ども向けワークショップとして、カプリモノ作家の岡本義彦氏に展示作品から5点を選び出してもらい、それを基にデザインを起す。ワークショップ当日にデザインされた紙にクレヨンで色を塗り、デザインの型通りに切り抜くことでオリジナルのカプリモノを作る。それを被って古代の美術品に変心し、ポラロイド写真撮影を行なう。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 美術品のカプリモノ5種類「ラムセス2世、エジプト王妃冠、
十一面観音、ライオングリフィン、カルラ」

広報用ポスター 300枚

作成した報告書等

ビデオ「古代のカプリモノで君もスマイルーカプリモノ変心塾」記録DVD 6枚
冊子（事業報告書 90部）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 482 人（引率者含む）

内 訳 大人207名 子ども275名

内、ワークショップ実施者は、241名

(1) 事業の実施状況について

MIHO MUSEUM がある滋賀県甲賀市信楽町は、聖武天皇の時代に紫香楽宮が造られた都であった。はかなくも、山火事や地震などの天災により、今の奈良県の平城京へ還都されたが、何も障害が起こらなければ、紫香楽宮に東大寺が出来、正倉院が出来たはずであった。また、この時代の中国大陸は、大帝国「唐」が支配しており、国際色豊かな文化が花開いていた。その文化を吸収しようと日本国から遣唐使が命がけで大陸へ渡り、名高い高僧や数多くの文物を日本へもたらした。その貴重な品々は、正倉院に大切に保管されて現在では、奈良国立博物館で行われる正倉院展で毎年秋に拝観することが出来る。その品々を拝観する時、東の文化と西の文化の交流を読み取ることが出来る。

MIHO MUSEUM の展示室は、エジプト、西アジア、ギリシャ・ローマ、南アジア、中国、ペルシャなどの古代美術が展示されている南館と企画展示や日本美術を展示する北館の鶴翼形の建物になっており、シルクロードを旅するかのような展示構成になっている。

また、平城京や東大寺の建物は、甲賀槇と呼ばれた信楽周辺の木材が使用されており、地縁の深い土地柄である。

奇しくも、西暦 2010 年に国家事業として平城遷都 1300 年記念事業が開催される。それに先立って、平城京とゆかりのある信楽町でもこの事業に向けて様々な企画が検討されて、機運が盛り上がって来ている。

このような状況の中、芸術拠点形成事業の説明会に参加し、MIHO MUSEUM としても地域の子どもたちに何を提供できるかを検討する機会を設けることにした。学芸部の職員が集まり、地域の子どもたちに分かりやすく、しかも楽しく地域の歴史を学ぶ方法を検討しあった。様々な意見が交わされた中に、学芸部教育普及の職員が 2 年前に東京のインテリア関係の催し会場で出会ったカブリモノが候補に挙がった。しかし、カブリモノというものがどのようなものなのかが、なかなか伝わりにくく、百聞は一見にしかずということで、滋賀県内でカブリモノのワークショップが行われる時に、教育普及職員 2 名が参加者として体験することになった。

この時に行われた「カブリモノ変心塾」の参加者は、幼児や小学校低学年のお子さんと引率の親と一緒に参加する家族連れが多く、講師のチャッピー岡本氏がデザインしたカブリモノを子どもたちがのびのびとクレヨンで描く姿や完成した自分だけのカブリモノを自慢げにかぶっている姿を見て、是非これを MIHO MUSEUM でも開催したいと強く感じて帰ってきた。

再度、学芸部内で話し合いが持たれ、カブリモノ変心塾を美術館で開催する場合、既存のデザインには美術館との関連が薄い為、チャッピー岡本氏に MIHO MUSEUM の所蔵品をモチーフに新たなカブリモノをデザインしてもらうことにより、美術品をより身近に感じることが出来、しかも楽しく学ぶことが出来るのではないかという結論に至った。

先述したように、地域の歴史との関連が深い所蔵品をリストアップし、その中から子どもたちに喜んでもらえる作品を 5 点選び出した。この企画が開催される時の企画展示が「ARCHAIC SMILE いにしえのほほえみ」というエジプトから日本までの笑顔の作品ばかりを集めた展覧会と言うこともあり、カブリモノ変心塾と丁度うまい具合にリンクさせることが出来た。カブリモノワークショップの名前も「古代のカブリモノで君もスマイルーカブリモノ変心塾」と名付け、子どもたちに興味を持ってもらえるように努めた。

広報手段として、カブリモノというものがどのようなものなのかを理解してもらう為に、エジプトの王妃の冠をデザインしたカブリモノをポスターのデザインにし、そのポスターを型通りに切り抜いて組み立てると完成するという手法を取り、楽しさをアピールした。このポスターは、甲賀市内の教育機関や公共施設などに郵送または配布を行った。また、当館で発行している季刊誌やホームページに掲載し、広く一般に告知した。

参加申し込みは、地域の方々の呼び掛けにより、ほぼ定員に達することが出来た。開催日当日は、参加者にまずこれから制作するカブリモノの美術品の展示解説を子どもにも分かりやすいように行い、美術品に親しみを持ってもらうように努めた。その後、ワークショップ会場へと移動し、講師のチャッピー岡本氏にご登場頂き、制作に当たったの注意事項を聞き、それぞれが作品制作に取り掛かった。

1テーブル4人掛けで座ってもらい、そこにスタッフが1人付きお世話を当たった。

子どもたちはクレヨンで思い思いの図柄を書き込み、デザインが完成した人からはさみで切り抜き作業に取り掛かった。幼児に対しては、引率の親が切り込みを行ってもらい危険のないように配慮した。その後、組み立てを行い、完成した人から鏡の前に誘導し、衣装やネックレスなどを付けてもらい、ポラロイドカメラで記念撮影を行った。撮った写真は、記念としてプレゼントした。このプログラムの取材に新聞社が2社来ていたこともあり、最後には全員で記念撮影を行い、みんなのスマイルで満ち溢れた。

予定していた事業が終了した後、朝日新聞の週刊情報誌の1面に掲載されたことや、参加者の方からも問い合わせがあり、様々な機関から事業開催の要請があった。

学芸部で話し合いを持ち、講師は教育普及職員が行うことで事業の継続を行った。

【事業の日程及び参加者】

- ・ 7月21日（土曜日）「古代のカブリモノで君もスマイル！ーカブリモノ変心塾」
参加者（引率者含む） 大人24名 子ども21名 （午後2回開催）
- ・ 7月25日（水曜日）「古代のカブリモノで君もスマイル！ーカブリモノ変心塾」
参加者（引率者含む） 大人17名 子ども43名 （午後2回開催）
- ・ 7月31日（火曜日）「地域を知ろう!!」の中で開催（午前1回）
参加者（引率者含む） 大人5名 子ども35名
- ・ 8月3日（金曜日）「中学体験美術講座」の中で開催（午後2回）
参加者（引率者含む） 大人9名 子ども33名
- ・ 8月20日（月曜日）「夏季教員研修会」の中で開催（午前中随時）
参加者 教員20名
- ・ 8月25日（土曜日）「柏崎キッズミュージアム」の中で開催（午後随時）
参加者（引率者含む） 大人36名 子ども23名
- ・ 8月26日（日曜日）「柏崎キッズミュージアム」の中で開催（午前・午後随時）
参加者（引率者含む） 大人48名 子ども33名
- ・ 10月11日（木曜日）「秋のびわこ観光キャンペーン」の中で開催（午後随時）
参加者（引率者含む） 大人4名 子ども3名
- ・ 10月12日（金曜日）「秋のびわこ観光キャンペーン」の中で開催（午後随時）
参加者（引率者含む） 大人2名 子ども4名

- ・ 10 月 14 日（日曜日）「はじめての美術館」で開催（午後 2 回）

参加者（引率者含む） 大人 30 名 子ども 39 名

- ・ 10 月 20 日（土曜日）「中学体験美術講座」の中で開催（午後 2 回）

参加者（引率者含む） 大人 12 名 子ども 41 名

全事業の参加者数は、大人 207 名 子ども 275 名 合計 482 名（引率者含む）であった。
その内、実際にワークショップを実施された方は、241 名である。

（2）地域との連携について

この事業を開催するに当たって、地域の子どもたちにどのように呼び掛けるかが課題であった。そこで、信楽町の子どもたちへ様々な教育プログラムを行っている信楽公民館の館長であり、しがらき狸学会会長、ひとまち政策研究所理事、こうか市民活動ネットワーク代表、京都橘大学及び滋賀文化短期大学の非常勤講師など様々な肩書きをお持ちの大平正道氏に協力を要請した。そして、大平氏が推進している天平ロマンの観光まちおこし事業とも関連していることから、この事業への賛同を得る事が出来た。

また、甲賀市教育員会生涯学習課の方より連絡があり、甲賀市内の 5 町の子どもたちに対して、地域のことを知ってもらう為に、それぞれの町内から数箇所を選び、バスで巡るという企画への協力の要請を受けた。地域との連携を密にしたいと考えていた矢先の出来事であったので、そのプログラムでカブリモノのワークショップの実施を提案させて頂いた。そして、何よりも感謝したいのは、MIHO MUSEUM の芸術拠点形成事業に対して、ご後援を頂けた事である。

（1）で先述したように、当初の予定では、7 月 21 日と 7 月 25 日の午後 2 回、計 4 回で終了する予定であった。しかし、様々な教育機関や施設から問い合わせや事業実施の要請があり、合計 16 回の開催に及んだ。

その中で、特筆すべき点は、美術館・博物館と学校をつなぐ役割をされている NPO 子どもの美術教育をサポートする会の代表である津屋結唱子さんがこのプログラムに親子で参加され、その後、津屋さんの実家である新潟県柏崎市が地震の被害に見舞われ、津屋さんと懇意であった大平氏の呼び掛けにより、普段、連携授業などを行っている美術館・博物館や大学生などのメンバーが集まり、ボランティアで柏崎に赴き、地震の被害によって精神状態が不安定な子どもたちの心のケアをしようと、様々なワークショップを行った。このプログラムに MIHO MUSEUM も参加し、今まで行ってきたワークショップとカブリモノのワークショップを行い、子どもたちに笑顔がよみがえった事である。

（3）成果物について

【カブリモノ 5 種類】

作 品 名	地 域	作品図版	カブリモノ図版
ラムセス 2 世浮彫	エジプト		

王妃頭部浮彫	エジプト		
ライオン・グリフィン型リュトン	イランまたはアフガニスタン		
十一面観音像	日本		
伎楽面迦楼羅	日本		

広報用ポスター（デザイン：王妃頭部浮彫のカブリモノ） 300 枚



報告書 90 部
報告用記録 DVD-R 6 部

（４）参加者の反応

子どもたちは、これからどのようなことが行われるのだろうと期待感を持って参加してくれる子が多く、とても意欲的であった。小さいお子さんは、お母さんが一緒になって制作し、造形高校の学生は、思い思いのデザインを駆使し、講師のチャッピー岡本氏も感心するデザインであった。

中には、何を描いて良いのか分からず、描き始めるのに時間が掛かるお子さんもいたが、スタッフがアドバイスをを行い、自由に描き始める事が出来た。

作品が完成し、衣装を着けてカブリモノを被ると、ラムセス２世のカブリモノを被る子は、王様らしくなり、王妃の冠を被る子は、王妃のような振る舞いになり、カブリモノの効果は絶大であった。

参加者の感想として、「娘のこんな笑顔を見たのは久しぶり」と言う母親や「工作が苦手でしたが、自分で作ったものをかぶって少し自身がつきました。」と言う中学生があり、予想以上の成果があった。

また、後日参加された方から感想が届き、「参加した日の夜、子どもが興奮して夜寝られなかったほどです。」「時々、カブリモノを引っ張り出してきて、王様になります。」

「ピアノの上に大切に飾っています。」という嬉しい報告があった。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

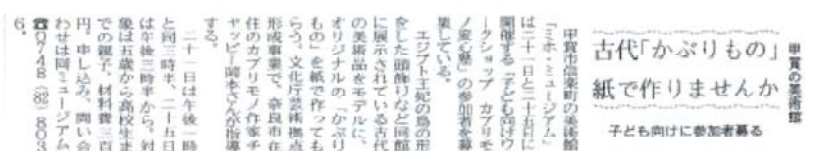
当初予定していた計画より、大幅に事業が拡大し、多くの子どもたちに対してプログラムを提供することが出来た。

また、講師の岡本善彦氏は、美術品を基にカブリモノを制作するのは初めての試みであり、「制作してとても楽しかった。」という感想を頂いた。やはり、スタッフ自身が楽しまなければ、子どもたちを楽しませることは出来ないことを再度、認識させられた。

予期せぬ効果として、地震で被害に遭われた新潟県柏崎市の子どもたちに対して、プログラムを提供でき、子どもたちに笑顔が戻った瞬間に、芸術の力は人の心を癒す力があると強く感じる事が出来た。

この事業を通して、地域の方々との繋がりが太くなり、様々な事業での開催が可能になった事が最大の効果である。

(6) 新聞記事等



京都新聞（滋賀版）平成19年7月20日 朝刊



朝日新聞（PR版）平成19年8月1日 あいうえおAI 滋賀 第348号 1面



毎日新聞（大阪版）平成19年9月29日 夕刊 1面